

やまんばのにしき

まつたにみよこ 文

せがわやすお 絵



ポプラ社 1967年 1000円

昔あるところに、ちょうふくやまという高い山があり、やまんばが住んでいると言われていました。ある秋の夜のこと、突然空が荒れて、やまんばが子どもを生んだからもちをもってこいと、叫ぶ声がします。そこで、いつもいばっている若者2人が、あかざばんばというばあさまの案内で、山へ向かいますが…。豪快でユーモラスな日本の昔話です。絵は美しい日本画で、軽妙な味を出しています。

よかったねネッドくん

レミー・シャーリップ 作

やぎたよしこ 訳



偕成社 1997年（初版1969年）1400円

びっくりパーティーに招待されたネッドくんは、遠いフロリダまで出発しますが、途中で幸運と災難が交互にネッドくんの身にふりかかります。ネッドくんは無事にパーティーにたどりつけるでしょうか。幸運な場面はカラーで、災難な場面は白黒で描かれており、視覚的な楽しさがあります。「よかった!」「でも、たいへん」ということばのくり返しで、おはなしがスピーディーにすすみます。英文つきの絵本です。

ラチとらいおん

マレーク・ベロニカ 文・絵

とくながやすもと 訳



福音館書店 1965年 1000円

ラチは、世界一弱虫な男の子です。犬や暗い部屋はもちろん、友達さえこわいので、いつも仲間はずれにされています。そんなある日、小さな赤いらいおんが現れて、強くなる訓練をしてくれます。らいおんがついていればこわいものなしのラチは、やがてらいおんがいなくても強くなり、らいおんとのお別れの時がきます。赤、黄色、緑の3色で色づけされた軽いタッチの絵が親しみやすいハンガリーの絵本です。